

# 第1学年 国語科学習指導案

児童 男子5名 女子7名 計12名  
授業者 安藤 瑠夏

1 単元名 くらべてよもう（光村図書1年上「かざぐるま」p.92～p.98）

2 教材名 「じどう車くらべ」（説明文）

## 3 単元について

### （1）教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。また、「書くこと」の目標は、「経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。」である。本単元で育てたい主となる能力は、「読むこと」の内容「イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「書くこと」の内容「イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」である。

本教材「じどう車くらべ」は、バスや乗用車、トラック、クレーン車の3種類の自動車を取り上げた説明文である。説明のしかたは、「話題・問題提起→問題に対する説明」を、自動車の「しごと」と「つくり」という2つの事柄の因果関係で述べる形となっている。それぞれの自動車の説明は3文で構成されている。1文目は「しごと」について、2文目と3文目は「つくり」について書かれている。「しごと」と「つくり」が関係づけて考えられるように、「そのために」という接続語が用いられており、これが3回繰り返されていることから、関係認識の初歩的な学習に効果的な教材であるといえる。

また、教科書では、学習したことを基に、他の自動車を選んで説明する文章を書くことを呼びかけている。児童の興味・関心を生かしながら読書活動に結びつけて調べたり、表現したりする活動へも発展させることができる教材である。

### （2）児童について

児童は、説明文の前単元「いろいろなくちばし」で、「問い」と「答え」を対応させるという説明文の基本的な文型を学び、教科書の写真や文章を手がかりにしながら言葉の具体的なイメージをふくらませる学習をしてきた。書く活動に関しては、サイドラインを引くことや文や語句を抜き出してつなげることを行ってきた。多くの児童が、サイドラインを引いたり、キーワードをとらえて書き抜くことができるようになってきている。しかし、「問い→答え」という説明のしかたを理解し、説明されている内容を確かに読み取ることは、十分とはいえず、今後も繰り返し指導していく必要がある。

入学時にはひらがなを読み書きできなかった児童も、個人差はあるものの、様々な場面で文章を読んだり書いたりすることができるようになってきている。自動車は、日常生活の中で目にしているため親しみをもって読むことができると思われるが、「しごと」や「つくり」に着目している経験は少ないと思われる。文章を読むことによって新しく知識を得ることの楽しさを味わわせるような指導をしていくことが必要である。

### (3) 指導にあたって

本単元では、正確に内容を読み取り、それを基にして自分で「じどう車ずかん」を書くことができるようにするために、以下の3点に留意して学習を進めていく。

1点目は、接続語の役割を考えさせることである。本教材は、それぞれの自動車の説明が「しごと」と「つくり」のまとまりから成り、「そのために」という接続語によって因果関係が明確になっている。「なんのために」を考えさせることで、それぞれの自動車の機能と構造を理解し、自動車同士を比べることで、さらに内容を確かに読み取ることができるようにしたい。

2点目は、言葉の意味理解を図りながら読むことである。「しごと」や「つくり」、「にだい」など、児童が理解しにくいと考えられる言葉がでてくる。それらの言葉の意味を児童から引き出したり、場合によっては辞書を活用したりすることによって、児童の語彙を増やし、内容理解を確かなものにしていきたい。

3点目は、目的意識をもって読ませることである。単元の終末段階では、「じどう車ずかん」を作る。児童はそのために読み取るという目的をもって教科書の内容・書き方を学習し、自分で書けるようになりたいという意欲をふくらませることができると考える。

### (4) 本校の研究にかかわって

本校の研究目標は、「確かに読み取る力を育てるために、説明的文章における、意図的な書く活動を位置付けた指導の在り方を実践的に明らかにする。」である。この目標の具現化のために、本単元の学習では、次のような書く活動を位置付けていく。

1点目は、サイドラインを引くことである。教師から問われていることは何かを理解し、その答えの部分を教科書から見つけ、サイドラインを引く。

2点目は、文や語句を抜き出してつなげることである。穴埋め・抜き書きの方法を用いながら、内容の大体を理解することができたかを判断する。

以上の手立てを講じ確かに読み取る力を育て、書いたものを評価することで、児童が学んだことを実感したり、自分で書いたものの正誤を判断することができるようにしたい。

## 4 単元の目標と言語活動

### (1) 単元の目標

- 自動車の「しごと」と「つくり」の関心に興味をもち、進んで文章を読もうとする。【関心・意欲・態度】
- 教材文を参考にして、好きな自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書くことができる。【書くこと】
- 3種類の自動車について、「しごと」と「つくり」の関係を考えながら文章の大体を読むことができる。【読むこと】
- 片仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。【言語事項】

### (2) 本単元で行う言語活動

- 自動車の「しごと」と「つくり」を簡単に説明する文章を書くこと。【書くこと】
- 自動車の「しごと」と「つくり」について説明した本や文章を読むこと。【読むこと】

## 5 単元の指導計画（全8時間）

次	時	学 習 活 動	関心 意欲 態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	説明文学習を通して 身に付けさせたい力 30
1	1	単元の学習内容を知る。 ①知っている自動車について発表する。 ②「じどう車ずかん」を作ることを知る。 ③全文を音読する。 ④片仮名，新出漢字の学習をする。	◎			○	○	1 題名読み 3 音読
	2	学習の見通しをもつ。 ①「話題・問題提示」をとらえる。 ②読み取りの視点「しごと」と「つくり」を知る。 ③形式段落に分け，学習計画を立てる。	○			◎	○	6 話題提示 7 問い答え 23 形式段落
2	3	バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ①「しごと」と「つくり」を読む。	○			◎		8 大意 14 資料
	4	トラックの「しごと」と「つくり」を読み取る。 ①「しごと」と「つくり」を読む。	○			◎		8 大意 14 資料
	5 (本時)	クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ①「しごと」と「つくり」を読む。	○			◎		8 大意 14 資料
3	6	はしご車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書く。 ①挿絵から「しごと」と「つくり」を見つける。 ②説明する文章を書く。	○		◎		○	
	7	好きな自動車を選び，説明する文章を書く。 ①説明したい自動車を選ぶ。 ②図鑑などから「しごと」と「つくり」を読み取る。 ③教材文を参考にしながら説明する文章を書く。	○		◎	○	○	
	8	「じどう車ずかん」を完成させる。 ①下書きをカードに清書し，絵を添える。 ②できあがった図鑑を友だちと交換して読み合い，感想を交流し合う。	○		◎		○	

## 6 本時の指導

### (1) 目標

クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。

### (2) 本時の評価

評価規準

クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り，まとめている。

Aの状況の具体的姿	Bの状況の具体的姿	Cの状況への手立て
サイドラインを引いたり提示された文型に従って抜き書きしたりしながら「しごと」と「つくり」を読み取り，学習して思ったことを自分の言葉で表現している。	サイドラインを引いたり提示された文型に従って抜き書きしたりしながら，「しごと」と「つくり」を読み取っている。	挿絵を手がかりにして大事な言葉に気付かせる。教師と対話しながら，どの部分に着目すればよいかを指導する。動作化を通して考える。

### (3) 展開

避	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導の留意点 (※) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
導 入	<b>1 これまでの学習を振り返る。</b>  <b>2 学習課題を確認する。</b> ○今日学習する自動車は何ですか。 ○クレーン車は今までの自動車と比べて，どんな自動車ですか。	・クレーン車です。  ・トラックみたいに大きい。 ・バスより人は乗れない。 ・乗用車より大きい。	※教科書や掲示を活用して，バスや乗用車，トラックの「しごと」と「つくり」を学習したことを想起する。  ※クレーン車の大きさを示し，読み取りの手立てとする。
	クレーン車のしごとと，そのためのつくりをしよう。		
5 分	<b>3 本時の学習の見通しをもつ。</b>		※本時は，クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り，まとめることができれば目標達成であることを共通理解する。
展 開	<b>4 課題を解決するために読む。</b> (1) 学習段落を音読する。 ○クレーン車の説明は，どこからどこまで書いてありますか。 ○どんなしごとをしているか，そのためにどんなつくりになっているかを考えながら読みましょう。	・⑧～⑨です。  ・一斉読 ・指名読	※学習課題を解決するためにどの段落に着目すればよいかを確認する。

展

(2) 「しごと」と「つくり」を読み取る。

○クレーン車は、どんな「しごと」をしていますか。そのためにどんな「つくり」になっていますか。書いてあるところに線を引きましょう。

【書く活動①】

(しごと)

- ・おもいものをつりあげるしごとをしています。
- (つくり)
- ・じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。
  - ・車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。

※「しごと」には青線、「つくり」には赤線を引かせ、読み取りの手立てとする。

※どの文に引いたかを挙手させる。

※教科書同様の紙板書を用意し、サイドラインを引いたところを児童と一緒に確認する。

開

(3) 「しごと」と「つくり」の関係を読み取る。

○クレーン車には、なぜ、じょうぶなうでがあるのですか。

○「つりあげる」ためにどんなつくりになっているのですか。

○なぜ、しっかりしたあしが、ついているのですか。

- ・重い物をつり上げるから。
- ・重い物をつり上げるしごとをしているから。

- ・うでがのびたりうごいたりする。

- ・車体が傾かないようにするため。
- ・車体が傾くと、重い物をつあげることができないから。

※「うで」や「あし」、「車たい」は、どの部分かを挿絵で確認しながら読み取らせる。

※「重い物」を具体的にイメージさせ、「じょうぶ」であることをとらえさせる。

※「つり上げる」を動作化させたり児童の言葉で説明させたりする。

※「のびる」「うごく」を動作化させることで、つくりを具体的にとらえさせる。

※車体を支えているのは「あし」であることに気付かせながら「かたむく」を確認する。

※クレーン車のしごとと、そのためのつくりであることを意識させながら読み取らせる。

※バスや乗用車、トラックと比較させながら、クレーン車の内容理解を深めさせる。

25分



